

# 令和 5(2023) 年度の堅果類(ドングリ)の豊凶とクマの出没について

R5(2023)年 9月 自然環境課

## 1 堅果類豊凶調査の概要

8月から9月にかけて、林業センターが調査を実施  
調査地は県内4地域(高原、県北、県南、奥日光)

## 2 今年度の結果

令和5(2023)年度は、県北地域のミズナラの結実が悪化したものの、高原地域のミズナラ、コナラ及び県南地域のコナラの結実が改善し、全体としては概ね良好な結実であった。(詳細については別紙のとおり)

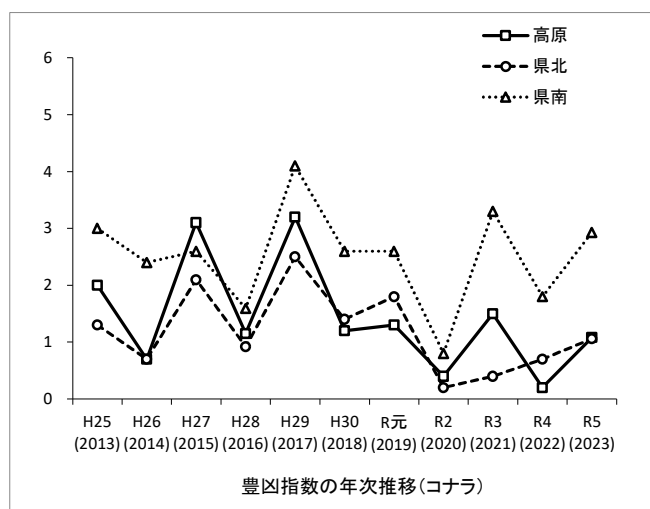
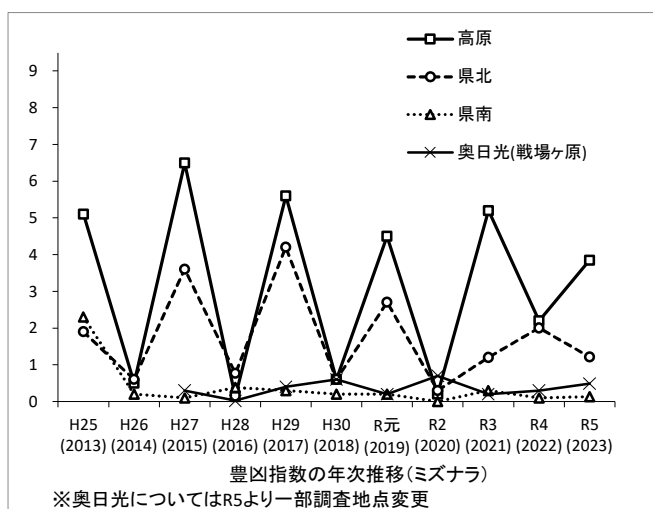
## 2 クマの出没について

堅果類の豊凶とクマの捕獲数の関係からみると、ミズナラ及びコナラが「凶作又は不作」の年は、クマの捕獲が晩秋(10月、11月)まで続く傾向がある。令和3(2021)年度の捕獲数は、大量捕獲年となった令和2(2020)年度と比較して、大幅に減少した。これは、堅果類の結実が改善したことにより人里への出没が減少し、結果として秋期の有害捕獲数が減少したためと考えられる。

令和5(2023)年8月までのクマの出没数は令和4(2022)年同期の1.3倍程度、クマの有害捕獲数は令和4(2022)年同期の0.9倍程度で推移している。クマによる人身事故は、令和4(2022)年度に3件発生したが、令和5(2023)年度は発生していない。

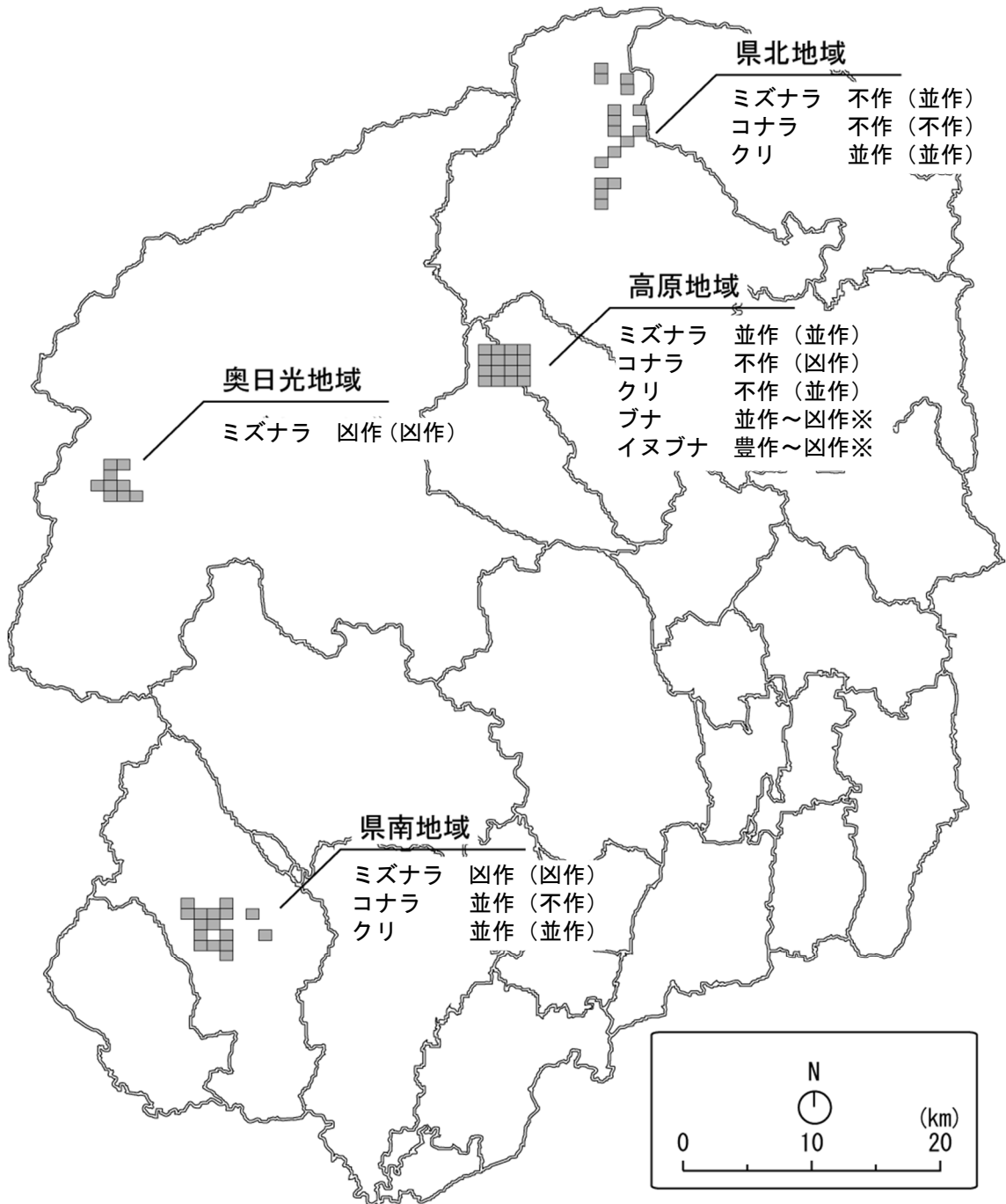
令和5(2023)年度の堅果類の結実は概ね良好であったが、生ゴミの適切な処理や収穫予定の無い柿・栗などの除去、人家周辺のヤブの刈払などクマを観光地や里地に近づけない対策が引き続き必要である。

また、もみじ狩りや登山、ハイキングなどで山林等に入る場合には、鈴やラジオ等の音により人の存在をクマに知らせ不慮の遭遇を避ける対策が引き続き必要である。



※豊凶指数：枝先50cmの実の数

○R5(2023)年度堅果類豊凶の状況(カッコ内は前年度の結果)



※高原地域のブナ・イヌブナについては、開花状況調査に基づく予測値

○堅果類豊凶の年次推移

ミズナラ ※奥日光についてはR5より一部調査地点変更

	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
高原	5.1	0.5	6.5	0.1	5.6	0.6	4.5	0.2	5.2	2.2	3.9
県北	1.9	0.6	3.6	0.8	4.2	0.6	2.7	0.3	1.2	2.0	1.2
県南	2.3	0.2	0.1	0.4	0.3	0.2	0.2	0.0	0.3	0.1	0.1
奥日光(戦場ヶ原)			0.3	0.0	0.4	0.6	0.2	0.7	0.2	0.3	0.5

コナラ

	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
高原	2.0	0.7	3.1	1.2	3.2	1.2	1.3	0.4	1.5	0.2	1.1
県北	1.3	0.7	2.1	0.9	2.5	1.4	1.8	0.2	0.4	0.7	1.1
県南	3.0	2.4	2.6	1.6	4.1	2.6	2.6	0.8	3.3	1.8	2.9

クリ

	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
高原	1.5	0.5	1.0	1.1	0.7	1.3	0.4	1.5	0.5	2.3	0.6
県北	1.6	1.5	1.0	2.0	1.3	2.7	0.9	1.3	1.8	2.0	2.1
県南	2.2	1.2	2.4	2.0	2.2	1.1	0.9	1.2	1.4	1.1	1.2

○堅果類豊凶の基準

ミズナラ(コナラ)

結実程度	枝先50cmの実の数
豊作	6個以上
並作	2~6個未満
不作	0.6~2個未満
凶作	0.6個未満

クリ

結実程度	枝先50cmの実の数
豊作	4個以上
並作	1~4個未満
不作	1個未満

ブナ・イヌブナ

結実程度	1㎡あたりの堅果数
豊作	100個以上
並作	10個以上~100個未満
凶作	10個